

- 池田議員 単独では収支は。
- 講師 ミュンスターは、充実した公共交通手段を提供しており、また運賃もお得に設定していることから、単独での収支は難しいようです。
- 池田議員 車が中央に入っていけないという、身障者とかはどうなんですか。
- 講師 緊急時は別ですが、障害者も基本的に自動車で乗り入れをすることはできません。中心地の中央通のすぐ横に駐車場があり、ここに自動車を駐車することができます。身体障害者は、駐車場でも最も便利な場所に自動車を駐車することができます。まちの通りは石畳ですが、車いす用に一部を平にしています。
- 中井議員 ミュンスターコーヒーのお話、それで、今まで学習会でちょうどお聞きしたかな、どっかの資料で見たんかなとも思ったりするんですけども、ミュンスターコーヒーが1.5トンということですが、私、コーヒー余り飲まないんでね、量、1.5トンが多いか少ないのかわからないんですが、概略で結構なんですけど、このミュンスターコーヒーをされている、このことは南北問題の解決とかいう、そのところはよく理解はできるんですが、今現在、ミュンスター市でミュンスターコーヒーを愛飲されている人たちの比率というのはどれぐらいのところがあるのかなというところをお教えいただけませんか。
- 講師 まだ低いです。現在は、一部のパン屋、エコロジスーパー、フェアトレードショップなどで販売されている状況ですが、私は、土産物屋さんなど、もっと販売網を広げるべきであると思っています。
- 中井議員 おいしいんですか。
- 講師 おいしいです。現在は年間6,000から7,000袋が販売されています。値段は、1袋500円から600円です。ドイツでは、一般のフェアトレードでも無農薬でもないコーヒーであれば、一袋300円か400円くらいから手に入れることができます。また、ドイツには、このようなフェアトレードのコーヒーが多数ありますので、競合も多い状況です。
- 中井議員 環境フォーラムのことが載せていただいていますけど、先ほど職員さんのことで、お2人、環境フォーラム、ミュンスター市のことでしょね、週20時間ぐらい働くと、20時間ずっとというんでしたら、お2人で交互に働いているのかどうか分かりませんが、そのところをもう少し詳しく教えていただきたいのと、これは月額いくらぐらいの職員の給料の補助が出されているのかというところをお教えいただけませんか。
- 講師 週20時間なんですけれども、環境フォーラムは、月曜日から金曜日まで午前中と木曜日のみ午後も開いています。2人が同時に勤務している日もありますし、1人しかいない日もあります。補助金額ですが、彼らの給料は全額出ています。額は把握していません。
- 中井議員 全額補助になっていますね。
- 講師 全額出しているということです。職員の1人は、別に太陽光発電設備設置プロジェクトの開発を行う会社を設立しまして、そこでも働いています。もう1人は、小さなお子さん

がいらっしゃる、子供が学校から帰ってくる午後は、自宅で過ごしているそうです。

○中井議員 それと、近江さんは気候同盟の方で仕事されているんですね。気候同盟のドイツNGOでされているんですが、この組織の位置づけというんでしょうかね、これは国を相手とした気候同盟の、NGO組織になつてるんですか、そういう気候同盟自身のご活躍の内容を簡単に結構ですので、お教えいただきたいと思います。

○講師 気候同盟は、ヨーロッパ内の17カ国から1,400の地方自治体が参加するネットワークです。社団法人の形をとっており、会員は、その1400の自治体です。気候同盟の会員になるには、前提状況を満たす必要があります。それは、自治体の市議会が、2030年までに自治体内のCO<sub>2</sub>の排出量を50%削減するということを承認することです。会費は、会員自治体の人口数によって異なってきます。市民1人当たり0.06セントで、大きな自治体で2年間で10万円から20万円ぐらいの会費を支払っています。フランクフルトに、このヨーロッパ本部事務局があり、私は、そこに勤務しています。私たち事務局員は、会員自治体が、目標「2030年までにCO<sub>2</sub>の排出量を50%削減する」ためのツールやプログラムを提供しています。これは、モニタリングツールであったり、自治体内で地球温暖化政策を実行するためのステップを提供したりしています。自治体は、少ない職員数で、地球温暖化対策を推進しなければなりません。それゆえに、気候同盟の一員として、他の自治体の優れた事例を学んだり、既に完成しているプログラムを利用することにより、対策を進めています。

○中井議員 それでは、日常の気候同盟としての仕事が大変で忙しいですね。

○講師 私は週20時間の枠組みで働いています。職員は15名程おりますが、皆、15時間から30時間の枠組みの雇用となっており、ワークシェアリングをしています。

○中井議員 大学で今通ってるんですね。

○講師 ミュンスター大学大学院の政治学研究科に所属しています。

○中井議員 前回の学習会で、お話を聞かせてもらったんですが、よくわからないのが発電事業のことなんです。原子力発電もドイツでまだ稼働していると、あと火力発電もあるでしょうし、自然の太陽光とか、いろいろあるだろうということを知りましたが、それぞれの発電の方法によって購入代金が違うんだと、そのところを市民の方が環境問題に非常に関心があって理解がある方については、割高になる電力を選択すると、こういうふうにおっしゃっていますが、実際生活している現場の人たちというのは、どんな感覚をお持ちなのかというのがよくわからないので、電気代って、どのぐらいの売り上げがあるのかということをお聞きしたんですが、それはちょっとわかりにくいということだったんですが。

○講師 私自身は、自然エネルギー100%の電力会社を選んでます。

○中井議員 会社が別々なんですか。

○講師 ドイツでは、電力自由化が導入されていまして、一般の人々も、電力会社を選択する

ことができます。私は、地元で100%の自然エネルギーを販売している会社から購入しています。

現在、ドイツでは全電力需要の14%が、自然エネルギーで供給されています。また、石油価格上昇もあり、自然エネルギーで発電した電力とこれまでの発電方法によって発電された電力の価格に大きな差はありません。また、原子力発電に対して否定的な考えを持っている人々も多く、自然エネルギーを選択する人々が増えてきています。

○中井議員 そうしましたら、各家庭に引き込まれている電力線は同じで、発電所の発電量によって、近江さんはAという会社を選んだら、払ったお金はAとかいう会社に入るわけですね、自治体じゃないわけですね。

○講師 選んだ電力会社に入ります。私の場合は、自治体ではなく自然エネルギーで発電している電力会社になります。自治体が発電設備をもち、会社を設立している場合もあります。例えばミュンスター市は発電所を持っており、電気を販売しています。自由化が導入される以前は、ミュンスター市民はミュンスター市が所有する電力会社から電力を購入していました。自由化導入以降は、ミュンスターの人々は、ミュンスター市ではない別の会社から電力を選択することができるようになりました。傾向としては、地元の電力会社を選ぶ人が多いです。近くに電力会社があると、様々なサービスやアドバイスを受けやすいからです。日本では、一定のレベルまでしか自由化が導入されていません。電力需要の大きい工場などが対象で個人ではありません。

○中井議員 堺は清掃工場で発電しても、それは電力会社に対して買ってもらってるんですね。そういう関係だけですから、集約したら1社だけなんですね。ドイツの場合は、それが数社あるということなんですね。

○講師 ドイツでは、2000年に自然エネルギーで発電した電力を、長期に渡り、高い価格で、電力会社が買い取ることを義務付ける法律が成立しました。電力会社の購入費用は、最終的に需要家が負担しています。

○水谷議員 例えば原子力でしたらCO<sub>2</sub>の排出量少ないんで、環境には優しいんですけども、今おっしゃってるのは、ドイツが環境立国なんで、自然のエネルギーの方が、ドイツで発電するよりも、よその国からでも輸入できるとか、そういったメリットがある。あるいは今おっしゃったように、自由化されてますから、少し高くても本来買ってたと、今回の原油高になってくると、何ら変わらなくなってきたという話ですね。

○講師 値段はほとんど変わりません。

○水谷議員 そういう取捨選択ができる、そして、環境に優しくですから、やっぱりそっちを選んじゃうということなんですね。

○講師 そうです。余り値段が変わらなければ、やっぱり。

○水谷議員 でも、日本ではちょっと無理なところありますね。

○講師 日本でも、個人の需要化が電力会社を選択できるようになれば、状況は変わってくると思います。この件については、自治体内での議論よりは、国にアプローチするテーマであるとも思います。

○西議員 先ほどの自転車の話の中で、昔はドイツは、車をのろのろ走らざるをえなくなって自転車でいった方が早いんじゃないかという話があったと思うんですが、例えばそれを堺に置きかえたときに、自転車道をつくってしまうと、さらに自動車が、車線が狭くなったりいうことで、さらにのろのろ走らなきゃいけない、反発が起きるという意味では、池田議員が言うような、市民の理解が得にくいんじゃないかということがあると思うんですけど、ドイツはそれをどうやって乗り越えたんでしょうか。

それから、似たようなことでいえば、環境に配慮ということで、ごみ分別とかいろいろあると思うんですけど、同様に、市民が面倒くさいということで反発とか、分別が余り多くなると、逆にイリーガルな分別がふえると思うんですね。そういう意味では、市民理解がやっぱり得にくいんじゃないかという観点がやっぱり出てくると思うんですけども、そこをどう考えるかをお示してください。

あともう1個だけ、今幾つかプログラムが紹介されたと思いますけど、堺市民として、このプログラムを導入したらおもしろいんじゃないかという話があればお教えてください。

○講師 1つ目のご質問ですが、当時は、車道もまだ充実していませんでした。ゆえに、反発も強くなかったと聞きました。更に、これは、現在も言われていることですが、自動車に乗る人も、自転車に乗るのです。自転車の利用を便利にすることは、彼らにとっても利益になるのです。

2つ目のゴミの分別への理解についてのご質問です。ミュンスター市は、ごみは出した分だけ料金を支払う仕組みを取っています。堺市は、ごみ料金は無料ですが、市民が支払う税金にゴミ処理費用は含まれています。

ミュンスターでは、廃棄物処理部門を子会社化しまして、この会社は、100%、市民が支払うゴミ料金によって運営されています。ごみは、分別して回収されます。残余ゴミや生ゴミは有料ですが、紙ごみや容器包装ゴミは無料で回収されます。それゆえ、市民にとっては、分別をして、できる限り、紙ごみや容器包装ゴミを取り除くと、ゴミ料金が安くなるのでお得なのです。

3つ目の堺にお勧めの政策に関するご質問ですが、建築物の温暖化対策です。堺とミュンスターの気候は異なります。ミュンスターで進めているように厚い断熱材を入れたら、夏は暑くて仕方がないのではないかと思われるかもしれません。これは正しくはなく、断熱対策を施すことにより、外の熱を中に入れることも防ぎますので、夏でも快適に暮らすことができるのです。

昨年、上野芝の我が家を改築したのですが、そのとき、断熱対策を行うために、助成金の

プログラムを探しましたが、見つけることができませんでした。断熱対策は、地球温暖化対策にもなりますし、堺における建設業者の雇用の促進にもつながります。建物の温暖化対策は、非常に重要だと考えています。

○中井議員 それは同感します。日本の古来工法の家がありますか。夏になりましてはクーラー一要らないんですよ。屋根の暑さが室内まで行きませんので、ほとんど、網戸にしておけば、涼しい風が入ってね、そういう意味では、物すごい大きなものです。家をきちっと密室にした方がやっぱり暑いんです。

○講師 そうなんです。これは少し考え方を考えるきっかけになるとと思います。

あとは、学校におけるプロジェクト光熱費削減分還元プロジェクトは、自治体にとっても、大変お得なものだと思います。日本でも、このプロジェクトを導入している自治体が出てきました。

○西議員 あと細かい話で、交通の自転車と自動車と歩行者の含有率、これはトリップ距離で見ただけでどうでしょうか。

○講師 堺の情報も探しましたが、見つけることができませんでした。堺市では、公共交通機関の利用としては電車が多いでしょうか。

○中井議員 今回、視察に行ったときに、日本の場合、小学校の4年生ぐらい、3年から4年にかけて、環境教育というものがあるんですが、ドイツの場合、そういう日本と制度が違いますけれども、学校で使っている、環境教育されている年代の教科書というものを分けてもらうことはできませんでしょうか。

○講師 環境教育施設に行かれたら、かなりの量の資料があるので。

○中井議員 それは購入できるんですか。

○講師 購入、そうですね、できると思います。事前に伝える事が大事だと思います。ミュンスター市の方でも幾つかあると思います。

○中井議員 それは市役所じゃないんですね。

○講師 市役所でもありますし、あと、環境フォーラムの方でも環境教育してますし、ドイツの場合は、ミュンスターだけではなくて、ドイツの場合は、環境教育って、行政や学校がイニシアティブを取って行うというよりも、環境自然保護団体が活動している自然保護地帯などで行われている場合が多いです。

○中井議員 学校の教育の中でされてるわけですか。

○講師 学校の中でもありますけれども、日本の方が充実してるかもしれませんが、学校の内部では、というのは、ドイツでは午前中のみ授業がある学校がほとんどです。ゆえに、授業以外のことに、時間は余りない状況だと聞いています。しかし、学校の外にでて、自然保護地帯の環境教育センターで指導を受ける機会などがあるようです。ミュンスターの環境教育施設のひとつで、子どもたちが農場を訪問し、農牧業の作業を通じて、環境問題や、社会、経

済のことを学ぶ施設があります。

○西議員 外部の授業を受ける義務はないんですか。受けない人も多々いるかもしれないので。

○講師 ないです。ただし、クラスごとにそのような場所を訪問することが多いので、担当の先生が積極的であれば、機会は多いようです。

○水谷議員 今、環境教育において、ドイツは、日本で言ったらNPOみたいなとか、市民団体というのがありまして、そういった活動がたくさんあって、例えばそういう団体とのコネクションというのは、何かとった方がいいですか。

○講師 現場を見ていただくと、やっぱり話を聞くよりもいいと思います。

○水谷議員 まず、現場を見てとってるんですけどね。

○講師 そうですよ、現物のプロジェクトを実際に見て、実際に体験するということですね。

○水谷議員 日本における市民団体の活動よりも、非常にみんな市民感覚でやっておられる活動の方が多いように思っていて、行政はその後押しをしているといいますかね、さっき補助金の話もありましたけども、ぜひその辺を本来は見ておきたいと思うんですけどね。

○講師 ミュンスターに行かれるのであれば、ミュンスターの行政機関と、あと環境フォーラムをやはりお勧めしますね。環境フォーラムは、やっぱり市政を批判する、双方の意見を聞いていただくと。

○水谷議員 本当に環境やら行政やら社会が一体となって、三位一体となってる部分があるかと思うんですね。その辺がやっぱり文献で見てたら、書いてますけれど、実際にどんな活動になってるのがなかなかわからないもんですからね、非常に興味があるんですけど。

あと、バスの話で僕らもエコノミックス的に考えると、非常に利用しやすい制度が導入されてると、メニューが多過ぎるのかなというぐらいの料金体系になってるんですけども、やはりバスに自転車が載るといふ部分、前は電車にも自転車が載ってどんどん行けるというような話があったんですけども、それはドイツ国内全体にやっぱりそういう制度があるんですか。

○講師 そうですね、自治体によって異なりますが、多くの自治体でバスの中にも自転車を持ち込めるようにしています。鉄道に関しては、ICE（新幹線）には、まだ自転車を持ち込むことができません。しかし、それ以外で列車でしたら、持ち込むことができます。

○水谷議員 バスに自転車を載せる方は、ほとんどが観光とか、いわゆるバケーションみたいな感じで行かれるのか、通勤とか、そのようなところですか。

○講師 様々です。通勤時もあります。買い物や通勤中に疲れたので、バスに載せるということもありますし、遠方に出掛ける際に、自転車に乗って、まず郊外まで出て、そこから自転車に乗って移動するというようなこともあります。雨が降ったから、自転車をバスの中へ載せるということもありますし。

○水谷議員 なるほど、そうですね、今回行くのは寒い雪のときなんですけれども、やっぱり

雨とか降ってきたらどうするのかなと思うんですね。

○講師 ドイツは、自転車運転時は雨かっぱです。今回、自転車に乗る機会があれば、雨がっぱは必ず必要になります。上半身用のものだけでなく、ズボンの部分にも対応できる雨がっぱを御用意ください。

○水谷議員 レインコート式のやつですね。

○講師 そうなんですね。また、本当に寒いので、手袋を持ってきてください。私は、日ごろ、風を全く通さない手袋をはめ、マフラーを巻いて自転車に乗っています。

○水谷議員 雪の中でも自転車は、日本ではほとんど乗らないですけど。

○講師 人数は減りますが、やはり多くの方が自転車で移動しています。地面が凍れば、自動車は滑ってのろのろと徐行運転していますが、自転車は悠々と走っています。

○中井議員 路面は凍ったりしませんか。

○講師 時々、凍ります。自転車に乗るかどうかは、最終的に天候を見て御判断ください。

○中井議員 ありがとうございました。